あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.172　2011.1.1

資料充実！ 元市長のお宝が博物館へ

百瀬　渡　モモセ ワタル（明治7年2月5日～昭和20年12月21日）

［任期］昭和15年4月～昭和19年4月
衆議院議員、県議会議員も歴任。若手記者として信濃日報で活躍。その後政界に転ずるが、市長在任は、戦時下と重なった。美髭により蒙古王の愛称で親しまれた。

百瀬正堂コレクション

2011年、博物館に松本市3代目市長・百瀬渡（ももせわたる）氏のコレクションが寄贈されることになりました。コレクションは、書画・骨董品を中心に700点を超える資料群です。

この一連の資料を博物館では『百瀬正堂（しょうどう）コレクション』と名付けました。博物館資料を充実させると共に、来年度以降に調査・整理の成果を博物館を訪れるみなさまへ公開すべく準備を進めています。

もくじ

誌上博物館 ◇ 松本まるごと博物館と施設の利活用
―はかり資料館拡張整備によせて― … 2-3
ミュージアムショップ通信 …… 4
ガイドコーナーはんてんぼく …… 4

松本まるごと博物館と施設の利活用

―はかり資料館拡張整備によせて―

はかり資料館

はじめに

近年、日本の各地で「博物館を拠点としたまちづくり」、「博物館を中心としたまちおこし」など、博物館の可能性への関心がとみに高まっています。「松本まるごと博物館構想」を持つ松本市も例外ではありません。平成22年4月24日に開催した、学都松本・博物館「勧館楽学」対談の第1回のテーマが「博物館は都市に似ている―博物館とまちづくり―」であったのは市民が博物館へ寄せる関心の高さをあらわしているように感じます。本稿では、はかり資料館に移築された「旧三松屋蔵座敷」の公開にあわせて、「松本まるごと博物館構想」を進める立場から、はかり資料館と中町について論じるとともに、「あらたな松本らしさ」の創出を考える上での一資料を提供してみます。

はかり資料館の歩み

1 中町の歩み

松本城下町は、親町三町・枝町十町・二十四小路から成り立っていました。江戸時代の中町は親町三町の一つで、呉服、塩、肴などの問屋や、造り酒屋が軒を連ねていました。往時の賑わいは、他の親町や名所とともに『善光寺道名所図会』にも紹介されています。しかしながら、現在の中町は名所図会に紹介された往時の姿ではありません。明治期の大火により町屋の多くを焼失したからです。この大火のおりに焼失を免れた建物の多くは土蔵造りの建物でした。大火以後の中町では耐火性の高い土蔵造りが注目され、多くの土蔵が造られました。古き松本の雰囲気を漂わせ、松本を訪れる人々の足を止める中町の景観はこのように形成され、多くの地域の人々に支えられて現在に至っています。

2 はかり資料館の歩み

はかり資料館は、中町通りのほぼ中央に位置し、国内外の「度」「量」「衡」に関する資料約700点を収蔵・展示する博物館附属施設です。はかり資料館は、扱う資料にふさわしく、明治35年創業、往時は中南信地方の度量衡器の需要を一手に引き受けていた「竹内度量衡店」の建物を改修し平成元年（1989）に開館しました。

はかり資料館では、かねてより来館者の探究心を刺激し、理解力を深め、実用的知識を蓄積することを目的にハンズオン展示（資料を手にとって学ぶことができる展示）を展開しています。また、この活動を発展させることで「展示から感動を生む」、マインドオンを目指しています。

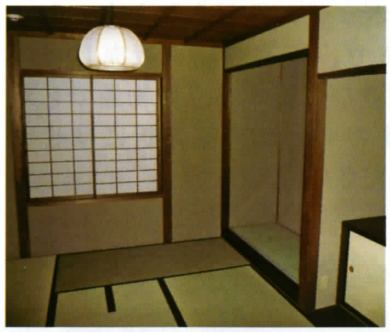
新しい考え方の展示を積極的に取り入れてきたはかり資料館ですが、バリアフリーがかねてからの課題でした。そこで、この度「旧三松屋蔵座敷」がはかり資料館の敷地内に移築されることとあわせ、全面改修を平成21年（2009）から進め、平成22年4月にリニューアルオープンしました。

旧三松屋蔵座敷とは

1 歩み

「旧三松屋蔵座敷」は、明治31年発行の「松本繁昌記」に紹介される老舗の材木問屋「三松屋」の蔵です。かつて家人が「西蔵」と呼んだこの蔵を、7代目当主である三原彰氏より松本市が譲り受け、蔵の町・中町に移築し、博物館施設「旧三松屋蔵座敷」として公開することになりました。

旧三松屋蔵座敷



1階　日本間

2階　洋間

2 建物の特徴

建物を設計・施工したのは大工棟梁の立石清重（1829～1894）です。彼は、旧開智学校や旧松本裁判所、長野師範学校松本支校などの大建築も施工しています。旧三松屋蔵座敷にはこれらの建物に共通する点をいくつも見ることができます。一般に「蔵」と言えば和風の建物の代名詞としてイメージされます。しかし、この建物はとてもモダンな雰囲気を持っています。例えば、蔵造りの堅牢な作りの中にゆるい曲線を使ったデザインは、ヨーロッパのアールヌーボー建築様式を代表するものです。

また、建物に入ると1階が日本間、2階が洋間となっているつくりに驚きます。特に、2階の洋間には応接セットが置かれ、この建物が大事なお客様をもてなすために建てられたことを想像させます。さらに、玄関入口の木彫レリーフや、当時としては珍しいガラスを使った窓など、細かな技巧がちりばめられている内装となっています。

ランプ吊り天井に描かれた
モダンな唐草模様

ケヤキの重厚な額縁窓

建物の特徴は以上のとおりです。次に建物の活用についてです。

1階の日本間を使ったお茶会の開催や、展示会・実演会も計画しています。また、2階洋間を使った、対談会の実施や体験学習などを開催することによって、情報発信の拠点とすることを考えています。

おわりに
― まちづくりに貢献する博物館 ―

中町に生まれ育った松本民芸館創設者丸山太郎はその著書『松本そだち』（昭和51年）で「わたしの創造する中町」という文章を記しています。ここには、土蔵造りの商家を活かしたまちづくりについて述べられています。「黒い瓦の屋根が一番多く残っているのは、現在では中町の通りを置いて他にないであろう」「中町の通りが魅力ある街造りをしたら、必ず旅の人びとは中町に足を運ぶに違いない。そして松本の中町へ来てよかったと思うに違いない」と、中町の将来を見すえています。丸山が愛してやまなかった中町は、今、丸山の創造通りに魅力的なまちになり、人びとが集う空間になっています。

そんな中町に20年前にオープンし、このたびリニューアルしたはかり資料館。今後も中町のまちづくりに貢献できるように様ざまな活動を展開してゆきます。

ご存知のとおり、松本まるごと博物館構想は市全域を活動範囲として展開しています。この構想は松本市立博物館を中核施設に、博物館群が地域に貢献する施設として、それぞれの役割を発揮して活動するもので、全国の博物館関係者からも注目されています。そのなかで、はかり資料館は、先ずは①博物館として市民の「蔵」として資料の保存・活用をベースに情報を発信し、②中町及び中心市街地のイメージアップ、③周辺文化財・商店街などとタイアップした地域振興・観光振興、などを実践しています。これらの活動を通して中町や中心市街地のまちづくりにいささかでも貢献できればと考えています。

（事業担当係）

［参考文献］
『松本そだち』　丸山太郎　信濃路　昭和51年
『復刻·松本繁昌記』　山麓社　昭和57年
『松本市史第3巻·民俗編』　松本市　平成9年
『三松屋蔵座敷 建築史資料調査報告書』　信濃建築史研究室　平成10年
『松本まるごと博物館構想』　松本市　平成12年

松本市立博物館

年始のお楽しみと言えば、やっぱり福袋！博物館では1月3日から福袋を販売します。絵はがきや縁起のいい枡などのオリジナルグッズに加え、健康をテーマにした人気商品を福袋に詰め込みました。総額3,000円以上の商品を2,000円（税込）でご用意します。また、毎年恒例となった「宝船と七福神」をモチーフにした「あめ市ピンバッチ」も販売します。

どちらも数に限りがありますので、新春はぜひ博物館へおこしください。

七福神ピンバッチ
価格600円（税込）

2011年博物館福袋
価格2,000円（税込）

山と自然博物館 デーラボッチグッズ

山と自然博物館内には館の隣にある池に伝わる巨人デーラボッチの言い伝えにちなんで作られた高さ2.2ｍのデーラボッチの像があります。この像は子ども達に人気で、関連商品を販売しています。これらは当館並びに松本市立博物館でしか買えないグッズですので、ご来館の折にはぜひ記念にお買い求めください。

ぬいぐるみ（23cm）
価格580円（税込）

ミニタオル（20cm）
価格400円（税込）

根付（ブルー・ピンク）
価格300円（税込）

ガイドコーナー　はんてんぼく

歴史の里から　☎0263-47-4515

高機（たかばた）で裂き織り体験

日　時　1月27日（木）／2月5日（土）／3月5日（土）
午前10時～正午／午後1時～3時
定　員　午前、午後とも各6名
体験料　1,000円（18cm×22cmの布を織ります）
持ち物　はさみ、裂き織りにしてみたい布（お持ちでしたら）
申　込　3日前までに歴史の里へ

時計博物館から　☎0263-36-0969

あめ市歴史展示
企画展「松本のあめ市～飴屋とあめ市～」

松本あめ市について、あめの販売と祭りの変遷をご紹介します。

会　期　1月6日（木）～2月6日（日）
会　場　松本市時計博物館　3階企画展示室
観覧料　企画展は無料（常設展は有料）

窪田空穂記念館から　☎0263-48-3440

空穂生家百人一首教室

日　時　1月15日（土）
午前10時～12時
講　師　寺沢尚武氏
観覧料　窪田空穂生家
受講料　無　料
申　込　実施当日まで

冬季文化講座「冬日ざし」

期　日	講　師	内　容
2月 5日(土)	上條　宏之　氏 (長野県短期大学学長)	窪田空穂と島崎藤村
2月12日(土)	中村　　宏　氏 (日本経済新聞社社友)	お稲荷さまの話 ― 帰化人と日本人
2月19日(土)	棟居　　淳　氏 (ギター・ウクレレ奏者)	空穂も聴いた！？ 1877～1967の音楽をギター・ウクレレで
2月26日(土)	赤羽　康男　氏 (市民タイムス編集委員)	「熊井啓への旅」連載こぼれ話
3月 5日(土)	丸山　　潔 (松本市山と自然博物館長)	農耕文化が育んだ里山の自然

時　間　午後1時30分～3時
資料代　各回100円
定　員　50人
会　場　窪田空穂生家
申　込　窪田空穂記念館まで

あとがき

ものの本によれば、「新鮮な経験」が多いほど、時間の経過は長く感じるのだそうです。

博物館では、これまでに引き続き2011年も、来館者の知的好奇心を満足させる活動をしていきます。時間の経過を「長く」感じてもらえるよう。　（K.I）

あなたと博物館　No.172
発行年月日／平成23年1月1日　編集・発行／松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号　Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷　川越印刷株式会社